

評価結果公表票

作成日 平成21年7月3日

【評価実施概要】

事業所番号	0270500481
法人名	有限会社ウイング
事業所名	グループホームエルムの里
所在地	青森県五所川原市鳥森45-1 (電話)0173-34-7402
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年2月18日

【情報提供票より】(平成21年1月16日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年3月24日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 16人, 非常勤 人, 常勤換算	15.8人

(2)建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000 円	その他の経費(月額)	理美容代	実費 他
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		—
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4)利用者の概要(平成21年1月16日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2		9 名	
要介護3	4 名	要介護4		1 名	
要介護5	1 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 80 歳	最低	64 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	白生会胃腸病院 木村内科医院 佐々木歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

五所川原市内の大型ショッピングセンター「エルムの街」にも近い場所で、周辺には銀行、病院、公民館などがあり、非常に活気のある場所に位置している。「私たちは尊厳と自由を重視し地域との交流を持ち毎日を穏やかに過ごせるよう、笑顔とやさしさをモットーに皆様が生きがいに結び付けられるようなより良いケアを提供いたします。」という独自の理念の実現のため、利用者優先のケアに努め、利用者の意向に沿った柔軟な支援を行っており、共に喜び合える関係を築いている。

ホームの隣にはデイサービスセンター(同社経営)が設置され、利用者同士のふれあい交流も行われているほか、代表者が常に地域で暮らすことの大切さを意識したケアサービスを目指しており、町内会との交流や近所の住民とのコミュニケーションや交流を大切にしたい取り組みに力を注いでいる。

更に、町内会に出向き認知症や介護についての講習会を行っており、地域住民から大変喜ばれている。

また、日々の献立は栄養士が栄養バランスに配慮し作成しており、一日の総摂取カロリーを概ね把握している。また、食事や水分の摂取量を毎食記録している。

【特に改善が求められる点】

職員も利用者と一緒にテーブルにつき、サポートも含めて、利用者に近い位置で食事することに期待したい。

災害発生時に備えた備蓄品は、ホーム内に保管することに期待したい。感染症マニュアル等に基づき、感染症に関する定期的な学習の時間を設けることに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の結果を全職員で検討し、改善に向けた取り組みを行っており、地域密着型サービスの役割を現在の理念に盛り込むなどの取り組みも行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員で取り組んでおり、評価の意義を理解するとともに、前回の評価結果を基に職員全員で話し合い、より良いケアサービスに繋がるよう取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は年間で期日を固定するなど、できるだけメンバー全員が参加しやすいように工夫している。また、自己評価や外部評価結果を報告し情報交換を行っているほか、運営推進会議メンバーの要望も取り入れ、認知症や介護保険制度等についての勉強会を行っている。</p> <p>情報交換や意見交換の内容の中で出された課題等については、全職員に周知され、サービスの向上に活かすような取り組みがされている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>毎月、職員の手書きの手紙や、隔月で発行しているホーム便りにより、利用者の暮らしぶりや健康状態が具体的に伝わるよう取り組んでいる。また、利用者の金銭管理については、出納帳に記録し、領収書を添えて報告している。</p> <p>玄関に意見箱を設置しているほか、面会時にはできるだけ家族等と話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。また、内部・外部苦情受付窓口を明示し、出された意見等については、日々のケアサービスに活かしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>管理者及び職員は、地域との支えあいについて十分理解しており、町内会に加入し、ホームへの訪問を呼びかけるほか、祭りや町内清掃等の地域行事へ参加するなどして、地域との交流を活発にしている。また、入居者の友達や近所の人々が差し入れを持ってきてくれたりしている。</p> <p>2級ヘルパー養成講座の実習受け入れを行っているほか、認知症についての講習会の講師として出向くなど、認知症や介護に関する啓蒙活動を行っている。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>運営者や職員は、開設当初より、利用者を主体とした地域で暮らすことの大切さを意識したホームづくりを念頭に置いて、サービスの提供に当たっている。</p> <p>理念は、職員全員で作成しており、ホーム内にも掲示し、常に意識したケアサービスに努めている。また、利用者本位の福祉サービスの向上を意識した研修へ積極的に参加するよう促しており、職員の質の向上に努めている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>入居前にホームの見学を取り入れるなど、利用者の視点に立った支援を行っている。また、利用者や家族が納得できるまで十分に話し合いを行い、双方の意向に沿ったサービス開始となるよう努めている。</p> <p>日常の関わりの中や、アセスメントから得た情報を基にし、利用者の理解に努めている。また、畑作業や裁縫、調理、書道、アケビとりなど、それぞれの得意分野で役割を担ってもらい、共同で生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>介護計画を作成する際は、日々の会話や観察を通して、利用者の意見や要望を引き出しているほか、職員から出された意見や気づきも参考にしている。必要に応じて家族等からの意見や要望等を取り入れ、個別の介護計画を作成している。</p> <p>短期計画は3ヶ月、長期計画は6ヶ月とし、介護計画の見直しを行っている。また、状態変化等の際は、随時見直しを行っており、利用者の身体状況の変化や利用者や家族、関係者等の意見等を反映した上で再アセスメントを行い、利用者本位の個別具体的な計画を作成している。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>日頃から職員は利用者の言動を拒否または否定することなく、プライバシーにも配慮した声かけや対応に努めている。</p> <p>また、理念に明示されている通り、利用者の尊厳と自由を重視し、食事時間や起床時間等についても、利用者のペースに合わせた柔軟な支援を行っている。</p> <p>共用空間であるリビングには、ソファ、テーブル、椅子、畳があり家庭的な雰囲気になっており、利用者が好きな場所で寛げるよう配慮されている。また、居室についても、十分スペースがとられており、その人らしい、落ち着ける居室となっている。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たちは尊厳と自由を重視し地域との交流を持ち毎日を穏やかに過ごせるよう、笑顔とやさしさをモットーに皆様が生きがいに結び付けられるようなより良いケアを提供いたします」という独自の理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で作成した理念を、ホーム玄関及び事務室に掲示し、いつでも確認できるようになっており、理念を意識した日々のケアサービスに努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	管理者及び職員は、地域との支えあいについて十分理解しており、町内会に加入し、ホームへの訪問を呼びかけるだけでなく、まつりや町内清掃等の地域行事へ参加するなどして、地域との交流を活発にしている。また、普段は入居者の友達が立ち寄ったり、近所の人差し入れを持ってきてくれたりしている。2級ヘルパー養成講座の実習受け入れを行っているほか、認知症についての講習会の講師として出向くなど、認知症や介護に関する啓発活動を行っている。利用者のプライバシーに配慮し、来訪者がホームから帰る際には、情報が漏洩しないようお願いしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4	5	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価の意義やねらいについては、職員会議時に周知しており、全職員が理解している。また、自己評価は全職員で取り組んでおり、前回の評価結果を基に職員全員で話し合い、より良いケアサービスに努めている。</p>		
5	6	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は年間で期日を固定するなど、できるだけメンバー全員が参加しやすいように工夫している。運営推進会議の中で出されたホームに対する意見等は、職員に周知され、サービスの向上に活かすような取り組みがされている。また、自己評価の結果を運営推進会議で報告するとともに、外部評価についても公表している。</p>		
6	7	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>ホームだよりを配布し情報を提供したり、自己評価や外部評価結果を報告するほか、相談時以外でも常に連絡を取り合い、いつでも話し合える環境が整っている。</p>		
7	8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部研修へ参加した後は、報告書を作成し、伝達研修を行っており、現在、入居者2名が地域福祉権利擁護事業を利用していることから、職員は事業については、概ね理解している。また、必要に応じて家族や利用者へ情報提供を行い、事業利用へ繋げる体制が整っている。</p>		
8	9	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部研修へ参加した後は、報告書を作成し伝達研修を行い、全職員に周知している。また、虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れ等のマニュアルを整備し、全職員が理解している。これまでも虐待が行われたことはないが、利用者に対するケア等を細かくチェックし、未然に防ぐよう心掛けている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や重要事項説明書を基に、事業所の理念やケアの方針等を説明しているほか、本人や家族から不安や疑問を引き出し、十分話し合いを行うことで、理解・納得を図っている。また、契約改訂時や退居時には、十分に説明し、同意を得ている。更に、退居先の情報提供を行うほか、退居後も退居先と連携を図っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、職員の手書きの手紙や、隔月で発行しているホーム便りにより、利用者の暮らしぶりや健康状態が具体的に伝わるよう取り組んでいる。また、利用者の金銭管理については、出納帳に記録し、領収書を添えて報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているほか、面会時にはできるだけ家族等と話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。また、内部・外部苦情受付窓口を明示しており、出された意見等については、日々のケアサービスに活かしている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は職員の交代による利用者への影響を理解しており、極力行っていない。やむを得ず異動等を行う場合は、十分に説明を行うほか、詳細な引継ぎ等を行い、利用者に不安感を抱かせないよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の質の向上を図る為に、個々にあわせた研修計画を作成し、年間あたり1人2～3回の外部研修に参加させている。また、研修受講後は報告書を作成の上、伝達研修を行い全職員に周知し、サービスの向上に努めている。職員の業務に関する助言等は運営者や管理者が行っている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、研修会への参加等を通じて他ホーム職員との情報交換や勉強会等が行われている。また、知人のネットワークを利用し、相談や情報交換などを行うことで、サービスの向上や職員の育成に役立っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームの見学を取り入れるなど、利用者の視点に立った支援を行っている。また、利用者や家族が納得できるまで十分に話し合いを行い、双方の意向に沿ったサービス開始となるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の関わりの中や、アセスメントから得た情報を基にし、利用者の理解に努めている。また、畑作業や裁縫、調理、書道、アケビ採りなど、それぞれの得意分野で役割を担ってもらい、共同で生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者との日々の会話や行動の中から思いや希望、意向の把握に努めている。また、職員会議等で話し合ったり、必要に応じて家族等から情報収集を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成する際は、日々の会話や観察を通して、利用者の意見や要望を引き出しており、ミーティング等で職員から出された意見や気づきも参考にしている。必要に応じて家族等からの意見や要望等を取り入れ、個別の介護計画を作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しを明示しており、短期計画は3ヶ月、長期計画は6ヶ月としている。また、状態変化等の際は、随時見直しを行っており、利用者の身体状況の変化や利用者や家族、関係者等の意見等を反映した上で再アセスメントを行い、利用者本位の個別具体的な計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理美容院利用の際の送迎や付き添い、病院受診時の付き添い、また外出行事を取り入れるなどの自主サービスを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受診状況をアセスメントや家族からの情報により把握しており、かかりつけ医の受診を支援している。また、かかりつけ医のほか、協力医療機関やホームの看護師にも気軽に相談できるような体制が整っている。通院方法や受診結果の伝達方法について、家族からの納得が得られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応に関わる指針を作成しており、利用者及び家族の意思を確認しながら、医療機関等との話し合いも持ち、意思統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃から職員は利用者の言動を拒否または否定することなく、プライバシーにも配慮した声かけや対応に努めている。また、職員は個人情報保護法について理解しており、利用者の個人情報に関する書類等は事務室に適正に管理している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の尊厳と自由を重視し、利用者優先のケアに努めている。また、食事や起床時間など、利用者のその日の体調や希望など、一人ひとりのペースに合わせた柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れた献立となっているほか、山菜の皮むきなどの調理準備や配下膳を職員と一緒にしている。職員は食事の際、利用者に声がけをしながら楽しく食事ができるよう支援しているが、職員と利用者が同じテーブルで食事をするまでには至っていない。	○	職員も利用者と一緒にテーブルにつき、サポートも含めて、利用者に近い位置で食事をすることに期待したい。
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回の午後の入浴時間となっているが、利用者の意向に合わせた時間や曜日に変更するなどの対応を行っている。また、個々に合わせ、担当者を変えたり同性介助等の支援をしているほか、入浴を拒否する利用者に対しては、無理強いすることなく、足浴にて対応するなどの工夫をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時のアセスメントや日常生活の関わりの中で把握している。また、利用者個々の得意とする趣味や家事、園芸など、利用者の活動を支えながら共に喜び、楽しみにつながるような支援や働きかけを行っている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常会話を通じて利用者個々の外出希望を引き出ししており、日常的に外出の機会を設け、気分転換を図っている。また、遠出の際は、利用者のその日の気分や身体状況に合わせた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルや指針が整備されており、全職員が理解している。また、身体拘束廃止委員会を設置し、身体拘束は行わないケアの提供に努めている。やむを得ず行わなければならない時には、記録を残し、家族に同意を得る体制が整っている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が自由に出入りできるよう、日中は玄関を施錠していない。また、常に見守りをし、利用者の外出傾向を察知した時は職員が付き添う体制が整っている。更に、無断外出時に備えて、警察の協力が得られるよう働きかけを行っている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回昼夜を想定した避難訓練を行っているほか、全職員が救急講習を受講している。災害時の対応について町内会と共に災害時対応計画を作成し、近隣からの協力が得られる体制が整っている。また、災害発生時に備え、食糧等をホーム内に備蓄するまでには至っていない。	○	災害発生時に備えた備蓄品は、ホーム内に保管することに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が栄養バランスに配慮した献立を作成しており、一日の総摂取カロリーを概ね把握している。また、食事や水分の摂取量を毎食記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルを作成し、必要に応じて見直している。また、最新の情報等を県等からの通達にて把握しており、ホーム便り等を通じて感染症に関する情報を利用者や家族等にも周知している。しかし、職員に対しマニュアル等に基づいた定期的な学習の機会を設けるまでには至っていない。	○	マニュアル等に基づいて、感染症に関する定期的な学習の機会を設けることに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間であるリビングには、家庭的なソファ、テーブル、椅子を使用しており、落ち着いて過ごせるよう配慮されている。職員が立てる物音も静かで、テレビは出来るだけつけず、会話を楽しめるよう支援している。ホーム内の明るさも適当で、利用者が落ち着いて過ごせる環境となっているほか、季節の飾りや花を活けるなど、季節感を大切にしている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで使い慣れ親しんだテーブルやテレビ等が持ち込まれており、職員と一緒にその人らしい心地よい居室づくりを行っている。		

※ は、重点項目。